南城市MaaS推進事業｜ジョルダン株式会社

2026/03/30

目的　:公共交通の利便性向上とデータ分析の環境構築

- 南城市におけるMaaSアプリ導入やキャッシュレス端末導入および同端末を活用したチケット認証により、地域住民および入域者の利便性向上、路線バスとタクシーによる市内移動の可用性を高め、サービス利用者の利用データ取得・分析により、地域課題の解決を目指すもの。

事業内容： MaaSアプリ導入とキャッシュレス対応

【交通サービスの高度化】

- 現金及び地域限定プリペイドのみ対応していた南城市Nバス10車両、東陽バス8車両に対してBOSS端末を導入し、クレジット決済および二次元コードチケット認証に対応する環境を整備した。
- 南城市の路線バスとタクシーで利用可能な既存MaaSアプリを導入し、路線バス乗り放題にタクシー利用、施設利用を組み合わせた企画券を造成した。

【モビリティデータの取得・活用】

- MaaSアプリ導入により取得した交通機関のODデータおよびタッチ決済の利用データの分析・可視化を行い、事業者・自治体へ提供し、適正な運行本数やバス停位置、路線再編に活用した。

【地域交通政策等の連携】

- 南城市における公共交通計画で定めた市役所を中核地とした交通網の形成ができていることをデータの分析結果から確認した。

効果

- 課題:公共交通機関において限られた運賃収受方法であること、乗降データが未取得等の問題により、利用・周遊促進や利便性の向上の取組み実施が困難であった。
- 効果:本事業で汎用的なキャッシュレス対応を実現し、乗降データ等の取得を可能とするとともに公共交通のチケットと市内の主要な観光スポットの利用を一体にした企画券を販売し、シームレスな利用を提供できる回遊促進施策を実施できた。

【実施エリア】 沖縄県南城市



【本事業の取組の全体像】



【MaaSアプリチケット画面】



【バスに設置したBOSS端末での認証の様子】



MLIT
Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	現在の人の流れに路線バス網が対応しておらず利便性を高めるための路線バス網の形成と、交通弱者の活動を支える移動手段の確保が求められている。	本事業により、路線バス2社、タクシー4社の合計6社を組み合わせたMaaSを導入し、複数の交通手段を利用できる環境が整備できた。
2	運賃収受が現金または地域限定のプリペイド(OKICA)となっている路線があり利便性の高いキャッシュレス対応が求められている。	本事業により市内の路線バスでクレジットカードによるタッチ決済を導入し、利便性の向上を実現。
3	南城市内の地域内交通同士の乗り継ぎがスムーズでなく、情報等も一元化されておらず市外からの人の流れが点でとどまっており、市内の回遊の促進も課題となっている。	公共交通のチケットと市内の主要な観光スポットの利用を一体にした企画券を販売し、シームレスな利用を提供できる回遊促進施策を実施できた。

KPI

【凡例】 赤字:目標達成　青字:目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	MaaSアプリ利用者数	MaaSアプリ利用者数	MaaSチケットの利用データの取得	事業年度末にとりまとめ	1ヶ月あたり30人以上	13人	未達成:当該エリアまでの移動を路線バスで行うユーザーへの訴求が困難であったため。
2	MaaS利用者の満足度向上	MaaS利用者の満足度	利用者アンケート調査	事業年度末にとりまとめ	90%以上	100%	達成:価格の安さ、乗降のスムーズさが満足度に繋がった
3	データ分析ツールの利用者評価向上	事業者・行政担当者の利用満足度	事業者アンケート調査	事業年度末にとりまとめ	満足度評価75点以上	50点	未達成:データ数が少なく、データ取得の環境構築止まりとなったため
4	企画券の参加事業者(交通)	交通事業者の参加数	実証運行時の参加数報告	事業年度末にとりまとめ	3社	6社	達成:市役所と連携し、交通事業者から取組みについての理解を得れたため
5	企画券の参加事業者(観光施設等)	観光事業者等の参加数	実証運行時の参加数報告	事業年度末にとりまとめ	3施設	3施設	達成:観光協会とも連携し、取組みについて理解を得れたため

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.